

一般演題 3-6

高気圧酸素療法の減圧時に急性心筋梗塞を 発症した、糖尿病性足壊疽の1例

田島康介¹⁾ 吉田祐文¹⁾ 榎木弘和¹⁾
 高尾英龍¹⁾ 木村昌芳¹⁾ 木場 健¹⁾
 室井純一²⁾ 十河匡光²⁾ 鈴木長明²⁾
 秋元郁美²⁾ 渋谷優圭²⁾ 梶野公亨²⁾
 真尾拓弥²⁾

- | |
|--------------------|
| 1) 大田原赤十字病院整形外科 |
| 2) 大田原赤十字病院臨床工学技術課 |

【はじめに】

高気圧酸素療法 (Hyperbaric oxygen therapy; HBO) は整形外科領域では糖尿病性壊疽など難治性皮膚潰瘍で用いられることは少なくない。しかし、その副作用として減圧時に急性心筋梗塞が起こり得ることは意外と知られていない。今回、糖尿病性足壊疽に対して高気圧酸素療法施行中、減圧時に急性心筋梗塞を発症した1例を経験したので報告する。

【症例】

61歳、男性。以前より糖尿病を指摘されるも放置していた。平成21年7月ごろより両足趾より膿やうじ虫が見られるも放置していたが、全身倦怠感と摂食不良から近医受診し、当院紹介となった。当院初診時、HbA1c 8.3と未治療の糖尿病であり、左に対しては左大腿切断、右は右4,5趾の切断を行い、HBOを併用した。HBOは2ATAで60分間の加圧を20回予定した。18回目の減圧中、無症候性ではあったが心電図モニター上著明なST上昇を認めたために急性心筋梗塞を発症したと判断し、血管造影にて右冠動脈#3に100%の狭窄をみとめたためバルーンカテーテルによる狭窄部の拡張およびステント留置を施行した。

【考察】

HBOの副作用としては気圧性中耳炎、気胸、低血糖発作などが知られているが、心臓においては、昇圧時には酸素分圧の上昇とともに相対的に冠動脈の血流量は減少し、逆に減圧時には酸素分圧の低下とともに冠動脈の血流は増加するが、酸素分圧の低下と冠動脈血流量の増加の間にはタイムラグが存在するため、減圧時に急性心筋梗塞が起こることは以

前から懸念されていた。本症例は心筋梗塞に既往はなかったが重度の糖尿病患者であり、無症候性ではあったものの適切に心電図をモニターしながら高気圧酸素療法を施行していたために短時間で急性心筋梗塞に対応し得た症例である。難治性皮膚潰瘍患者には糖尿病などの基礎疾患を有することが多いため、減圧時の合併症も常に念頭に置き、HBO施行時には適切なモニタリングを行うことが肝要であると思われた。

本口演の詳細は、[田島康介ほか：整形外科61(12)：1311-1313, 2010.]を参考されたし。